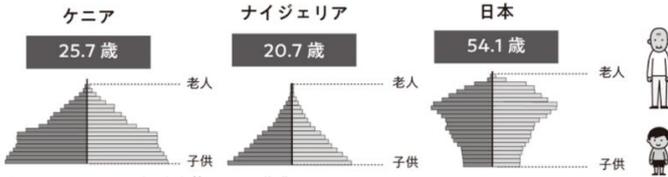


資料1 「アフリカの人口はこの後どうなる？」

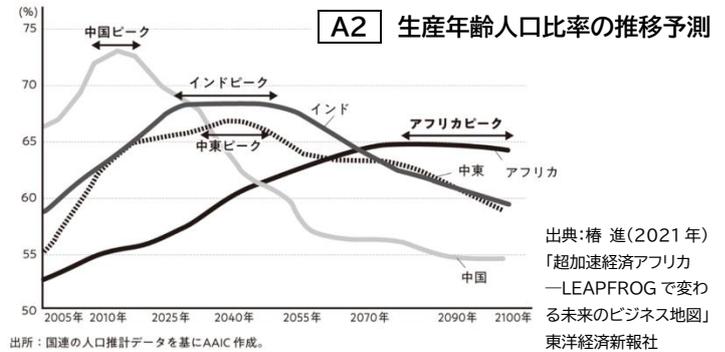
A1 人口ピラミッドと中位年齢(2040年)



出所：UN DESA のデータを基に AAIC 作成。

樫 進(2021年)「超加速経済アフリカ—LEAPFROG で変わる未来のビジネス地図」東洋経済新報社を一部抜粋

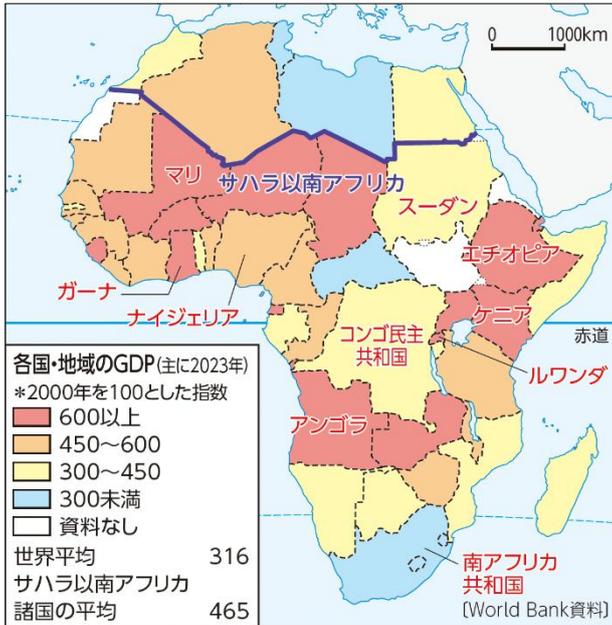
A2 生産年齢人口比率の推移予測



出典：樫 進(2021年)「超加速経済アフリカ—LEAPFROG で変わる未来のビジネス地図」東洋経済新報社

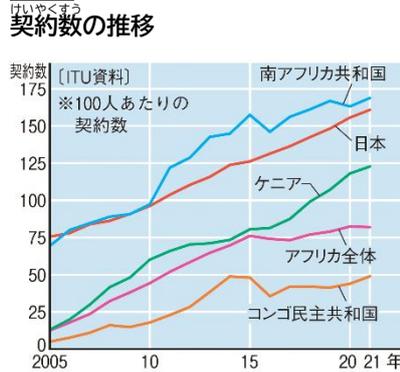
資料2 「アフリカの経済はこの後どうなる？」

A3 アフリカ諸国の経済成長

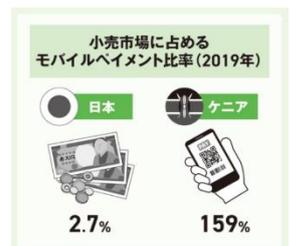


各国・地域のGDP(主に2023年)
*2000年を100とした指数
600以上
450~600
300~450
300未満
資料なし
世界平均 316
サハラ以南アフリカ諸国の平均 465
[World Bank資料]

A4 主な国の携帯電話契約数の推移



A5 小売市場に占めるモバイルペイメント比率



出典：樫 進(2021年)「超加速経済アフリカ—LEAPFROG で変わる未来のビジネス地図」東洋経済新報社

資料3 「アフリカのICTの現状は？」

A7 急激な発展を遂げるアフリカの国々

アフリカでは、人々の暮らしや産業が、段階を踏まずに一気に進歩する「かえる跳び」とよばれる現象がみられます。例えば、固定電話が普及するよりも先に、大規模な設備が不要な携帯電話やスマートフォンが広く普及しました。また、ケニアでは、モバイル送金サービスがいち早く広まり、銀行口座をもたなくても、出稼ぎに行った人から故郷に残った家族へ送金したり、電気や水道などの公共料金をスムーズに支払いできたりするようになりました。

広大な土地と豊富な資源があり、若い世代の人口が増え続けているアフリカは、今後のさらなる経済発展が期待されています。そして、近い将来、アジアに次ぐ巨大な市場になると予想され、世界の国々が注目しています。



街角の代理店で携帯電話を使って送金する人(ケニア、ナイロビ、2018年) [写真提供：ロイター/アフロ]

資料4 「アフリカのこれからは？」

A8 アフリカの医療テック市場が熱い！

動画を見てみよう！

【トヨタ自動車】クルマとミライ「アフリカで活躍！命を救うドローン」

<https://www.youtube.com/watch?v=2pmhUOuBpNw> (2026.3.7 最終閲覧)



A9 アフリカでの主要国の進出状況(2019年)

外資企業本拠地	日本	アメリカ	中国	韓国	イギリス	フランス
進出企業数	493	2000	2504	461	887	1100
各国の在留人数(人)	0.7万	11万	80~100万	1.8万	16.8万	24.8万

樫 進(2021年)「超加速経済アフリカ—LEAPFROG で変わる未来のビジネス地図」東洋経済新報社を元に筆者作成

資料5 「LEAPFROG(リープフロッグ:かえる跳び)現象とは？」

A10 動画を見てみよう！

【解説】水や電気届かない場所でスマホが…急発展するアフリカ「リープ・フロッグ現象」とは？(2021年7月14日放送)

<https://www.youtube.com/watch?v=SiwZ8JAAuKI> (2026.3.7 最終閲覧)



A11 「なぜ、近代化が遅れていたアフリカでイノベーション(技術革新)が起こったの？」

アフリカでは、スマホが普及し、M-PESA での支払いや、スマホを使った遠隔診断や AI 医療診断が増えてきている。スマホが普及すると固定電話や携帯電話がいらなくなる。M-PESA での支払いが増えると、銀行はいらなくなる。遠隔診断ができるなら医者は少なくてよい。新たなテクノロジーが登場すると、それまで活躍できていた(既得権益を持っていた)人や企業が困ることになる。もちろん新たなテクノロジーの導入に反対する。しかし、アフリカには元々固定電話も携帯電話も普及していない。銀行も少なく、医者も少ない。既得権益がないとイノベーションのスピードは速まるのだ。